

## A-15) 新生児頭蓋内出血7症例の検討

浜田 秀雄・桑山 直也  
遠藤 俊郎・林 央周 (富山医科薬科大)  
高久 晃 (学脳神経外科)

【目的】新生児における頭蓋内出血は比較的稀な疾患で、外傷、血液凝固異常、低酸素症、未成熟などに伴い発症することが知られている。我々は新生児に発症した頭蓋内出血7例について検討した。

【方法】1980年以降当施設で経験した新生児頭蓋内出血は7症例(男児6例, 女児1例, 平均日齢は2日)であった。その内3例は脳実質内出血(脳動静脈奇形, 星芽腫, 原因不明が各1例), 2例は脳室内出血, 2例は外傷による硬膜外および硬膜下血腫(各々1例)であった。全症例に血腫除去, ドレナージ, シヤント術などの外科的治療を施行した。治療後の追跡期間は3ヵ月から17年である。

【結果】7例中4例の追跡結果は良好で、神経脱落症状はなく正常に発育している。3例では神経脱落症状あるいは精神発達遅滞を認めている。

【結論】生後間もない新生児の頭蓋内出血に対しては積極的かつ迅速な外科治療が重要である。また、病因が明らかな場合は、その基礎疾患に対する適切な管理・治療と長期の経過観察が必要である。

## A-16) Dorsal IC dissecting aneurysm の2例

鈴木 直也 (青森労災病院)  
脳神経外科  
乙供 通則 (おっとも脳神経)  
クリニック

Dorsal IC aneurysm は術中破裂が生じやすいことやクリッピング困難例が多いことが認識されているが、なかには dissecting aneurysm があったことを証明し、それゆえ根治をめざす上で neck clipping が妥当な strategy かという点に疑問を唱える報告もある。我々はクモ膜下出血で発症した2例の IC dorsal aneurysm を経験した。一例は術中所見から、もう一例は術前血管造影から dissecting と診断した。

【症例1】27歳男性。排便後に突然の頭痛で発症。術中に破裂し IC 外壁の穴から出血していた。IC を頭蓋内で trapping 施行した。採取した wall は脆弱で内腔に壁在性血栓を認めた。

【症例2】41歳女性。頭痛で発症。右 CAG で、解離した IC dorsal の内壁が IC を途絶させたり再開通させたりする変化がとらえられた。血管造影側面像では解離内膜が描出されるが MC の重なりと見誤りやすい像で

あった。頸部 IC の結紮と STA-MCA anastomosis を行った。

【考察】① Dorsal IC aneurysm は dissecting aneurysm である可能性は否定できない。②血管造影側面像で MC の重なりに隠れた内膜解離像の読影を見落す可能性があり判読に注意が必要である。③血行再建の準備を整え trapping, proximal occlusion をめざすのが合理的と思えた。

## A-17) 観血的治療を施行した内頸動脈瘤24例の検討

山口 成仁・光田 幸彦 (浅ノ川総合病院)  
脳神経外科  
大西 寛明 (富山労災病院)  
山口 成仁・木谷 隆一 (脳神経外科)

1995~97年に観血的治療を施行した内頸動脈瘤24例について血管造影所見および手術所見を検討したので報告する。症例の内訳は未破裂動脈瘤 (URA) 12例, 破裂動脈瘤 (RA) 12例で、平均年齢は URA が 59.6 才, RA が 64.1 才であった。URA 7例に key-hole surgery, 4例に通常の開頭手術, 1例に STA-MCA 吻合術後 IC-ligation を施行した。RA 12例は全例に開頭手術を施行した。動脈瘤の向きは gabel 1例, post-lat 15例, post-med 3例, post 2例, ant-med 2例, ant-lat 2例であった。18例に clipping を施行, 他は coating 又は wrapping に留まった。血管分岐と無関係であった動脈瘤を6例認めた。IC の ant-wall より発生した例, post-projection を示した例, optic N 間より clipping を施行した例等をスライドに示し考察を加える。

## A-18) 窓形成を伴った前交通動脈動脈瘤の手術経験

向井 裕修・泉 祥子 (公立能登総合病院)  
橋本 正明 (脳神経外科)

【目的】窓形成を伴った前交通動脈 (Acom. A) 動脈瘤の手術経験を報告する。【方法】対象は1987年4月よりの10年間で当科で経験された Acom. A 動脈瘤52例中、窓形成を伴った6例である。

【結果】2例において fenestration があることで術中に一時 disorientation となった。何れも術前の血管撮影で fenestration の存在は解らなかつた。1例は動脈瘤の柄部に clip をかけたつもりが、剥離した結果それ